

きびしい緊張感のあるみかしほ学園
自ら学ぶ力と、学ぶことを喜ぶ学生
清潔な美しい環境、他者を敬愛する心
大きな希望と先見性のある学生
実践する力と根気強さのある学生

みかしほ

MIKASHIHO GAKUEN 2010/2 No.547

発行者 学校法人みかしほ学園
印刷者 みかしほ学園
発行所 学校法人みかしほ学園
姫路市東延未2-165
TEL(079)288-2600

定価 150円

オープンニングパーティー

みかしほ学園本館で新春激励会

1月12日(月曜日)本校主催の激励会が、日本栄養専門学校(みかしほ学園本館)2階で開催されました。

メニューは、「串カツ」「焼きそば」「フランクフルト」「鶏の唐揚げ」「フライドポテト」「ピザ」「やきめし」「チョコレートケーキ」「ポテトフライ」「マドレーヌ」など食べきれないほどの種類で、立食形式のパーティーです。

乾杯の後、新しい年が良い年であるように、また3月に卒業を控えた学生は、残り少ない学園生活を充実したものにしようという決意をあらたにする絶好の機会でした。



思わず笑顔が・・・(本館2Fで)



今年も頑張るぞ!(本館2Fで)

扉へ向かって

残り少ない三学期、「卒業」という言葉が目の前を行き来し始めました。皆さんにとっては大切な時期であり、みかしほ学園における学生生活の集大成とすべきこの時期を無意味な期間にしないよう、充実した日々であって欲しいと願っています。

入学式では、皆さん全員が感動された事でしょう。「夢」「目

St. Valentine's Day

二月十四日の聖ヴァレンティノの祭日。日本では、女性がチョコレートを男性に贈る日になっている。聖ヴァレンティノは二世紀後半イタリアのテルニに生まれ、テルニのヴェスコボ司教として活躍し、愛の守護神として信仰を集めた。エピソードによると、聖ヴァレンティノが司式をして結ばれた二人は、未永く幸せに暮らすことが出来た。また、結婚の儀式を持たない若い人達の結婚の司式を率先して引き受けたという。次第に聖ヴァレンティノの

前で結婚式をとり行う人々がふえ、名声が高まっていったという。当時、キリスト教は異教の時代であり、迫害を受け、聖ヴァレンティノは二七〇年二月十四日、捕らえられて殺害された。そして、死後一四〇〇余年のち、一六六四年三月十五日の宗教会議でようやく聖人に列せられ、テルニの守護聖人に任命された。こうしたエピソードをへて、



愛の守護神としていつそう親しまれていった。チョコレートとの結びつきは、日本の某チョコレートメーカーがこれらの話をたくみに取り入れ、一九三六年に「ヴァレンティンデーにチョコレートの贈り物を」という販売促進の新聞広告を出したが始まりといわれている。いわば商品戦略の一つとしてスタートした。ヴァレンティンデーの習慣は、チョコレート菓子の売り上げ増加に貢献し、現在ではチョコレート業界の大きなイベントになっている。(洋菓子辞典より)

卒業証書授与式

平成22年3月13日(土曜日)

姫路キャッスルホテル

10:30~



40年後の食料

今から四十年後、二十一世紀の半ばに達する前、わが国は食料を失う可能性がある。その時、世界の中で最も深刻な飢えに直面する国になる。こんな途方もない未来を語れば、笑う人も多いだろう。しかし、決して故なしとしない根拠がある。

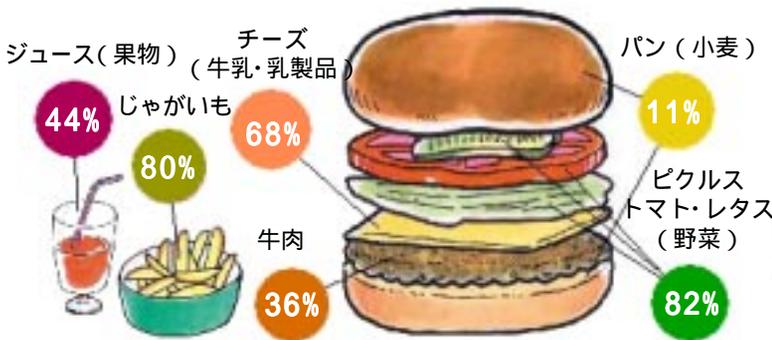
世界の奇跡ともてはやされ、わが国が高度経済成長を誇った初期の一九六〇年当時。わが国の食料自給率はカロリーベースで八〇%を維持していた。以来、所得倍増計画等の政策展開に基づき工業化の道をひた走り。輸出を盛んにするとともに円高を誘導し、ついに世界最大の食料輸入国へと変貌していった。今、食料自給率は四〇%を切るようなレベルにある。四十年で四〇%のダウンだから、単純に平均すれば、工業化の裏側で、毎年確実に食糧自給率を一%ずつ下げ続けてきた計算になる。この傾向が、今後も続くとすれば、四十年後には〇%、つまり、わが国から食料、言い換えれば農業が消滅することを暗示している。今、農業に従事している人達の平均年齢は、すでに六十歳をとづくに越し、若者の姿はほとんど見えない状況にあることも、この予測を裏打ちしている。

四十年後、世界人口は今の六十億

人から九十億人に達するとされ、しかし、世界の農業は八十億人を養うのが限度であり、早晚、食料問題が世界的に深刻化し、価格も高騰していくに相違ない。それ以前に石油が枯渇に向かえば、輸送困難と世界的なインフレーションをも覚悟しなければならぬ。

人口が一億人を越す人口大国の中で、これほど食料自給を軽視している国は世界にはない。ましてや、わが国は災害大国でもあり、危機に備えて食料自給がもっと国民的関心と呼ぶべきであるにもかかわらずである。二十一世紀に生きる世代が、安んじてこの地に生き続けることが出来る基礎は食料と農業であることをあらためて自覚したいものである。 神戸新聞「随想」より

日本で作られている割合



2月の行事食

2月の最初の午の日が初午、稲荷神社の縁日です。稲荷神社は、お稲荷さんとして親しまれ、信仰を集めてきましたが、このお稲荷さんの名をそのままもらった食べ物が稲荷寿司です。これは、稲荷神の使といわれる狐の好物が油揚げであることに由来しています。稲荷寿司はこんなわけで、江戸時代のころから初午につきものの料理になったといわれています。

この江戸時代には、もともと「稲荷の神」といって農業神だった稲荷神が商売繁盛の神さまとして信心されるようになり、特に祭神が京都伏見の稲荷神社にお降りになったといわれています。

世界三大スープ

寒い季節に、温かいスープの話です。皆さんは世界三大スープが言えますか？おもしろいことにみんなそれぞれに思っている「これが世界の三大スープだ」というものに違いがあるそうです。プロの意見では、説にはフランスの「コンソメ」、ロシアの「ボルシチ」、タイの「トムヤムクン」、説にはフランスの「ブイヤベース」、中国の「フ



なったといわれる2月の初午の日には各地で賑わったようです。「伊勢屋、稲荷に犬の糞」と、多いものたたとえにされたのもこのころです。現在でも、各家の守り神として宅内に祭られていたり、デパートなどの近代的なビルの屋上に祭

られているのを見かけるほどです。から、すべて合理的な世の中にも、一家の安泰、繁栄をなにかに託して祈りたいという気持ちは誰の心にもあるようです。



カヒレスープ」、タイの「トムヤムクン」という具合に違いがあります。またその他中国の「佛跳牆」(さまざまな材料を加えた高級スープでそのかぐわしい香をかぐと、徳の高い僧や仏でさえ堀を跳び越えて食べにくるといわれているスー

あなたの家の近くにも必ず一つや二つお稲荷さんがあるはずですから、初午の日にはお参りに出かけるのも心機一転のよいきっかけになるかもしれません。そのあとでこの日に因んで油揚げを使った稲荷寿司とか信田巻きを楽しんではいかがでしょう。年中行事の思い出には、食べ物の思い出が重なっていることが多いものです。結婚して子供ができたなら、ぜひおいしい稲荷寿司や信田巻きの思い出を作っておいて下さい。お母さんやおばあさんが作ってくれた思い出のある稲荷寿司をこんどは、あなたが子供に作る、こうして受け継がれることが、行事にまつわる食べ物の良さであると思います。プ)を入れる人もあります。日本人に「私の三大スープ」というアンケートを取ったところ、1位はダントツでみそ汁、2位に吸い物、3位コンソメスープ、4位コンソメという順になり、料理人は、だしのきいた吸い物や椀盛りを三大スープにあげ、若い人たちはコンソメスープや卵スープをあげています。皆さんもプロになり、誰にも負けないスープを作れるように頑張ってください。